

定例研究会報告

研究企画委員会

麻生 恵（東京農業大学）

当学会では、しばらく休止状態にあった研究会活動の充実・再開にむけて、平成13年度より「定例研究会」をスタートさせることになった。

明治大学で開催された創立30周年記念大会のシンポジウムでは「あそび」をテーマに、歴史・原論、政策（社会学）、資源空間（造園学）の3分野から報告が行われ、新時代における「あそび」の重要性と幅広さ、様々な分野からの研究アプローチの必要性が提示された。

そこで、研究会の基本テーマをこの「あそび」に据えながら、各分野から適宜具体的なテーマを設定して年3～4回のペースで研究会を開催し、議論を深めていくことになった。また、学会活動の社会還元、会員へのサービス等を考慮し、学生も含めたなるべく多くの方々が参加出来る、楽しいものにするという方針で進めることになった。

以上の方針にもとづき、早速、第1回定例研究会が現地見学会、第2回定例研究会が同じテーマで室内における検討会という形式で開催された。

平成13年度第1回定例研究会

「多摩丘陵における市民による遊歩道ネットワークづくり」見学会報告

1. 趣旨

多摩丘陵（町田市北部の鶴見川源流地域、多摩ニュータウンの南隣）には、大都市近郊に位置するにもかかわらず今なお昔ながらの魅力的な里山の風景・自然環境が残されている。

ここでは、そのレクリエーション利用を促し、同時に風景・環境を保全するために丘陵地帯を巡る遊歩道（フットパス）のネットワークづくり（歩道の整備、指導標の設置、マップの作成、観察等会の開催など）が市民の手によって進められている。市民グループと一緒に丘陵を巡りながら、市民（ユーザー）自身がフィールドを整備していくことの意義を考えることを第一の目的とした。

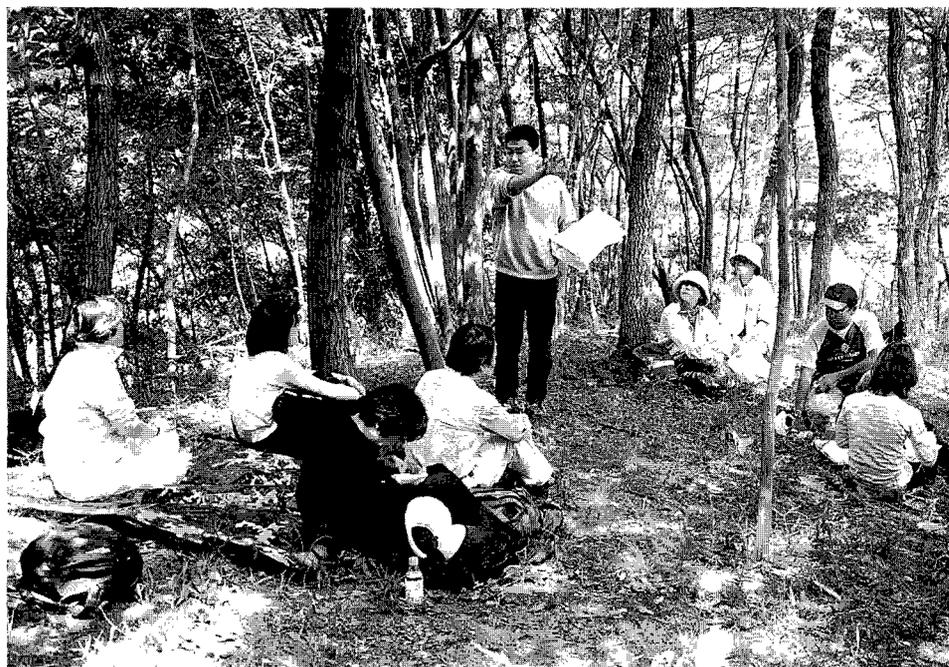
また、郊外の身近な自然環境を対象としたレクリエーション活動（あそび）のあり方（散策、自然観察、歴史探訪、環境保全活動等）、緑地の保全問題と近郊型グリーンツーリズム（地元住民側からのレクリエーション資源を生かしたまちづくり）の可能性、市民活動に

対する行政の支援策などについても検討することを目的とした。

2. 見学会のみどころ

見学会の具体的なみどころとして、次の4点を設定した。

- ①大都市近郊における身近な自然環境としての多摩丘陵の特性、資源性と現状
 - ・自然性（丘陵地、二次自然）、・景観（郷土景観）、・アクセス（大都市圏における位置）、・開発の特徴、・現状と問題点、など
- ②丘陵地におけるレクリエーション活動、レクリエーション空間整備の特徴
 - ・公園型（施設整備型）に対するオープンな空間利用型の特徴、・丘陵地で展開される様々なレクリエーション活動（ウォーキング、自然観察、雑木林管理、歴史探訪）、・利用者に求められる資質、・利用促進の方策、など



雑木林の中で行われた行政担当者や市民とのディスカッション（町田市小野路地区）

- ③市民による空間整備の実態
 - ・行政と市民の役割分担、・空間の管理運営における市民の役割、・情報提供、ルートのネットワーク化、市民団体のNPO法人化、など
- ④地域資源を生かしたまちづくりの可能性
 - ・近郊型ツーリズム、・農産物の地産地消、・資源管理の仕組みづくり、など

3. 行程など

日時：平成13年5月19日（土）午前10時集合
 集合場所：小田急多摩線黒川駅改札口前（新宿より新百合ヶ丘乗換で約40分）
 見学コース：小田急黒川駅→黒川地区→真光寺地区→小野路中央地区（昼食、ディスカッション、自然観察会）→小野路宿（解散）（歩行距離約8km）
 コーディネーター：麻生 恵（東京農業大学地域環境科学部）
 協力団体：鶴川地域まちづくり市民の会（岩上、神谷、鶴岡）、町田市役所都市緑政部（岩間）ほか。
 参加者数：18名

4. 見学会の内容・成果

当日は五月晴れの好天に恵まれ、絶好の見学会日和となった。最初に川崎市最西端に位置し今尚緑豊かな谷戸田の風景が残る「黒川地区」を経て、「真光寺地区」を北側の尾根上から眺望し、かつて幕末に近藤勇などの新撰組が小野路宿の道場に通ったといわれる「布田道」をたどり、1時間半程で「小野路中央地区」に到着した。ここに至るまでに、ルート沿いの雑木林や耕作地、伝統的な屋敷の佇まい、尾根上で開ける眺

望などレクリエーション空間としての資源性や価値を確認する一方で、大規模な丘陵地の造成や管理の滞った雑木林など、それらが失われつつある現実も視察した。

小野路中央地区の明るい雑木林の中で昼食を済ませたのち、ディスカッションを行った。先ずコーディネーター（麻生）により、この地域の地理的な状況、レクリエーション空間としての価値や資源性、社会経済情勢の変化に伴う丘陵地の開発と保全の考え方の変化など、今後の問題点や課題などについて説明が行われた。続いて、この地域の保全管理活動に取り組んでいる「鶴川地域まちづくり市民の会」の神谷由紀子氏より、日常開催しているウォーキング活動の実態、この地域の在来の道を結ぶことによるウォーキングルートのネットワーク化とマップづくり、道標の設置や刈り払いなどルートの整備活動など、市民自身がレクリエーションを兼ねてフィールドを管理している活動の実態報告がなされた。さらに、町田市都市緑政部の岩間貴之氏より、行政の立場から丘陵地帯の緑地保全への取り組みの経緯や、これらの風景を支える地元農家の置かれた状況、行政と市民との協働の重要性などが報告された。

ディスカッションのあと、「鶴川地域まちづくり市民の会」が町田市より管理を委託されることになった雑木林を対象に、同会の鶴岡秀樹氏の指導により自然観察会が開催された。従来の農家に代わって市民自身がボランティアとしてフィールドを管理し、併せて自然観察や山遊びなどの楽しみに結びつけていくという、新しいレクリエーション活動の方向性が示唆された。

こうした催しを行った後、午後3時過ぎに小野路宿に到着し、解散した。更なる議論は第2回定例研究会で行うこととした。

平成13年度第2回定例研究会

「多摩丘陵における市民によるあそび空間(遊歩道
ネットワーク)づくり」と「あそび」研究の方向

第1回定例会の現地見学会では十分な議論が出来なかったため、第2回定例会では、「あそび」空間としての遊歩道の特徴、あるいは「あそび」研究という視点からみたとき、こうした空間や活動がどのような意味や位置付けになるのか、これからの研究の方向や課題としてどのようなものがあげられるのか、といった視点から議論を深めた。

日 時：平成13年6月22日（金）18:00～20:00

場 所：学習院女子大学 5号館 521教室

コーディネーター：麻生 恵（東京農業大学地域環境科学部）

話題提供者：岩間貴之（町田市都市緑政部）

栗田和弥（東京農業大学地域環境科学部）